

環境活動支援センターえこらぼの活動

(自然共生課)

1 概要

県民の行う環境活動に対する支援や環境学習及び地球温暖化防止活動の推進拠点となる「環境活動支援センターえこらぼ」は、平成18年4月に開設され、環境情報の発信や環境学習講師の派遣、環境イベントの開催などの事業を実施しています。

2 令和2年度の主な活動実績

(1) 情報発信

メールマガジンやホームページなどで、イベント情報の紹介や、環境活動団体及び環境学習講師の情報を提供しました。

(2) 環境学習の支援

環境学習講師の紹介・派遣により地域や学校での環境学習の支援を行いました。

また、環境学習の機会を提供するため、環境絵日記コンテストを開催しました。

さらに、環境省が行うこどもエコクラブ事業の県事務局として、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に行う環境学習や実践活動を支援しました。

ア 環境学習講師派遣

学校や地域のイベントなどへ、えこらぼに登録している環境学習講師を紹介・派遣しました。

講師紹介・派遣件数：44件

環境学習受講者数：1,777人

イ 環境絵日記コンテスト

県内の小学生を対象に、環境について考え、行動したことを絵日記に表現することで環境への意識や理解を育むことを目的とした「環境絵日記コンテスト」を実施しました。

参加学校数：71校

応募作品数：3,305作品



高知「環境絵日記」表彰式（令和2年11月29日）

ウ こどもエコクラブ事業

こどもエコクラブ活動を体験するバスツアーなどのイベントや、活動発表などを行う交流会の開催を予定していましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止しました。

こどもエコクラブ登録数 14クラブ

(令和3年3月31日現在)

(3) 環境学習プログラムリストの配布

学校・地域における環境学習機会の提供を拡大するため、環境学習プログラムリストを配布しました。

- ・小学校向けプログラムリスト
配布先：県内の小学校
各市町村教育委員会など
- ・中学校及び高等学校向けプログラムリスト
配布先：県内の中学校及び高等学校
各市町村教育委員会など
- ・社会人向けプログラムリスト
配布先：県内の公民館、集落活動センター
各市町村教育委員会生涯学習課など

(4) 生物多様性こうち戦略推進リーダー養成講座

「生物多様性こうち戦略」を推進するため、生物多様性の保全や普及などに関する専門性を有する先導的な人材の育成を行いました。

- ・高知市会場
日時：令和2年8月8日（土）
受講者：8名
- ・オンライン講座
日時：令和2年8月29日（土）
受講者：13名

(5) 生物多様性の意義の普及・啓発

生物多様性という言葉とその意義を広く県民が理解し、一人ひとりのライフスタイルが生物多様性に配慮した行動に変わっていくよう取り組んでいます。

ア 表彰事業

地域における生物多様性の保全と持続可能な利用につながる取組などを表彰する事業「ふるさとのいのちをつなぐ 生物多様性こうち戦略プラン大賞（仮）」を令和3年度から実施するため、事業実施準備委員会を設置して、協議を行いました。

イ 普及啓発キットの貸出

生物多様性こうち戦略推進リーダーの活動支援を目的に、普及啓発キットの貸出を行いました。

活用実績：4回

(6) 環境イベントの開催

海の生物多様性の価値と保全の重要性を県民に伝えるとともに、地球規模での汚染が懸念される海洋プラスチックごみ問題について考えるシンポジウムを開催しました。

テーマ：深海のふしぎな生きものと海洋プラスチック汚染

会場：高新文化ホール

来場者：58人



シンポジウム（令和3年2月27日）

環境活動支援センターえこらぼ

令和2年度管理運営団体

特定非営利活動法人 環境の杜こうち

所在地：高知市旭町3丁目115番地

こうち男女共同参画センター3F

TEL：088-802-7765 / FAX：088-802-2205

E-Mail：center@ecolabo-kochi.jp

ホームページ：https://ecolabo-kochi.jp/

コクヨ-四万十 結の森

プロジェクトへの参加

(高等学校課・四万十高校)

1 概要

四万十高校は、平成11年から普通科に「自然環境コース」を設置し、高知県の恵まれた自然環境を生かした環境教育に関する取組を積極的に行っています。

これまでに「森と川と海のつながりフィールドワーク」、「黒尊研修」など幅広く環境学習を行ってきました。

2 施策の展開

(実施した取組)

コクヨ-四万十 結の森プロジェクト

(1) 目的

森と川と海のつながりや、自然と地域のつながりを知り、四万十川周辺の環境を考え行動する人材となる。

(2) 主催

コクヨ株式会社・四万十町森林組合
高知県立四万十高等学校

(3) 開催日

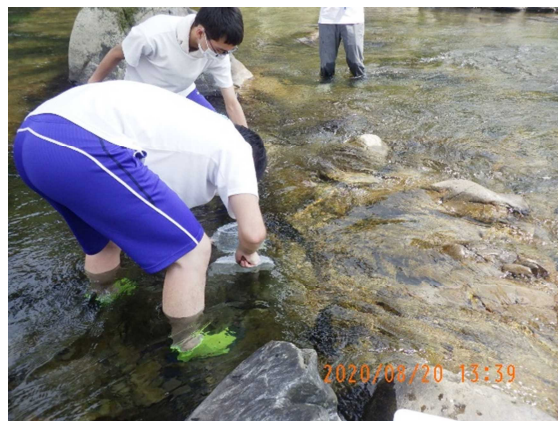
令和2年8月20日(木)
令和2年11月20日(金)
令和2年11月21日(土)

(4) 開催場所

四万十町大正

(5) 実施内容

- ア 清流度調査
参加者15名
- イ 四万十高校プレゼンテーション
・結の森の活動
・植生調査方法説明
・令和元年度調査結果
参加者18名
- ウ 協働の森「結の森」モニタリング調査
参加者25名



清流度調査 (四万十町大正・櫛原川)



四万十高校プレゼンテーション
(四万十町大正・ウエル花夢キャンプ場)



「結の森」モニタリング調査 (四万十町大正)

地球環境や風力発電の出前授業

(公営企業局電気工水課)

令和2年度 出前授業実績

- ・実施回数：1回
- ・受講生徒数：延べ6名
(その他、教員2名受講)

※新型コロナウイルスの影響により、
例年に比べて実施回数が少なくなっています。

1 概要

公営企業局は、甫喜ヶ峰風力発電所（平成16年運転開始、2基）で、地球環境にやさしい風力発電所を運営しています。

また、風力発電を通して子どもたちに地球環境への関心を持ってもらうことを目的として、職員が学校に出向き「風力エネルギー出前授業」を実施しています。

ここ数年は、県立香北青少年の家で行われている小学校5年生を対象とした宿泊研修の一コマとしても、この出前授業を活用していただいています。

2 体験を通じた学習

出前授業では、まず風力発電や環境問題についての基礎的な講義を行います。講義は、受講される子どもたちの学年を考慮した内容で実施しています。

講義終了後は、ペットボトルで風車の羽根を作成してもらいます。この羽根を風の力で回して電気を起こし、発電量を計る実験を行っています。

また、授業で作成していただいた風車の羽根をご家庭の扇風機などで楽しめるように公営企業局オリジナルの手持ち棒を配布しています。

その他、公営企業局では「風力エネルギーブックレット」を作成しており、風力発電や再生可能エネルギーについてわかりやすく学習していただけるよう、出前授業の際に冊子の配布を行っています。

なお、出前授業の詳細な内容や申し込み方法については、公営企業局電気工水課のホームページに掲載しています。

※出前授業のご案内

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/koueikigyou-chiiki-demae.html>



出前授業の様子



ペットボトル風車の発電量測定風景



ペットボトル風車の羽根と手持ち棒

自然体験型学習事業

(生涯学習課)

1 現状と課題

・高知県は豊かな森林をはじめ、様々な地域の魅力があります。しかしながら子どもたちの自然体験活動や地域と関わる機会は減少しています。

・中山間においては、小規模の学校が多いため、集団で体験活動をする機会が限られています。そのため、他者と協働することが苦手な児童・生徒が増える懸念があります

・厳しい環境に置かれている児童生徒の割合が全国平均を大きく上回る本県では、経済的な理由で家や学校を離れた自然に関わる体験の機会が限られてしまうことが懸念されます。

2 施策の展開

(実施した取組)

自然体験・集団活動を通じて、子どもの生きる力を育成するため、小中学校等が学校行事として、青少年教育施設等を活用して行う、森林環境学習や自然体験などを含む2泊3日以上宿泊体験活動の経費に対して補助を行いました。また、NPO法人や青少年教育団体などの民間団体等が実施する概ね高校生以下の児童生徒を対象とした1泊2日以上同活動に対して補助を行いました。

(1) 参加校・参加団体、参加児童生徒数

(3校・3団体、106名)

○小学校2校

香美市立片地小学校、日高村立日下小学校

○中学校1校

日高村立日高中学校

○民間団体等3団体

高知県青年団協議会、NPO法人GIFT、NPO法人高知市こども劇場

(2) 開催場所

国立室戸青少年自然の家、県立幡多青少年の家、ほっと平山(廃校活用施設)、香美市佐岡コミュニティセンター(廃校活用施設)、四万十カヌーとキャンプの里かわらっこ

(3) 活動内容

○森林環境学習など、山や木に関わる活動

・フォトラリー、フォトビンゴ(山をフィールドに植生について学ぶ)

・孟宗竹を竹林から切り出し、ノコギリ等を用いて加工し、飯盒代わりにして米を炊く

・山から木の実や葉、ツタなどを集めて、オブジェを作成

・鳥の巣貯金箱

・自伐型林業について座学及び伐採・採寸の見学など
・ネイチャーゲーム
・間伐材を用いた木工

○その他の体験活動

・海の体験(シーカヤックなど)

・野外炊飯(防災食作り)

・川の遊び
・特産物生産体験

・星空観察
・ドラム缶風呂

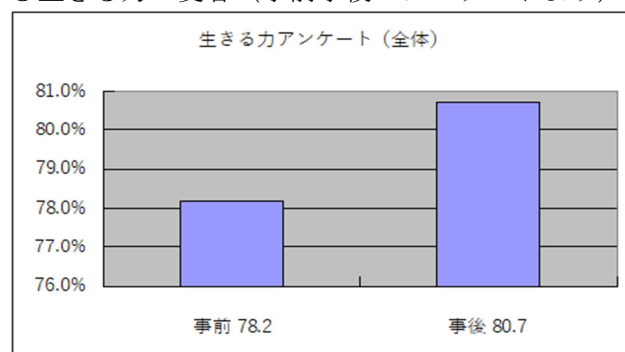
・砂浜体験(砂粒観察、貝殻集め、砂像づくり)

・河川敷サウナ体験

・防災関係(避難所疑似体験 HUG、段ボールハウス、スタンプラリーなど)



○生きる力の変容(事前事後のアンケートより)



○学校からの意見

・「言葉や知識として分かっていることでも、実際に体験することで学ぶことも多く良い体験となった。」

・「子どもが主体的に考えたプログラムを実施することで、自然の中で体験する楽しさを味わえた。」

○保護者からの意見

・「2泊3日親と離れて先生方や友人と生活し、普段できない経験もできて、仲間意識も高まり、協調性等も学べたのではないかと思います。」

(実施しようとする取組)

・令和2年度と同様に森林環境学習や自然体験などを含む宿泊体験について、学校行事として実施するものについては2泊3日以上、民間団体等が実施するものについては1泊2日以上取組について補助をします。また、働き方改革の一環として泊をとともう事業の精選を各学校が行っていることもあり、その影響を受けにくい修学旅行等の行事において、本事業の活用を提案していきます。

子ども地域学習推進事業 (森の子ども会議)

(生涯学習課)

1 現状と課題

現在、私立を含め19市町村の70校が学校林を保有しています。しかしながらこれらを活用しているのは9市町村の17校と4分の1で、子どもたちの体験的な森林環境学習のために教育的な資源は十分に活用されているとは言えない状況です。

本事業の参加者の満足度は高いのですが、将来、林業等をはじめとする森林保全の担い手として学校林を有効に活用するなど、何らかの活動に寄与できたのかどうかの検証が今後の課題です。

2 施策の展開

(実施した取組)

○1回目：令和2年7月～10月

テーマ「森博士になる」

- ・大学生ファシリテーターによるオンラインでの顔合わせ。現地でのシュミレーションなど今後の企画・運営、準備について協議。

○2回目：令和2年10月4日(日)

テーマ「学びを形にして自然と生きる力！」

- ・木の伐採や木工作、課題や森林の魅力発見ワークショップなどの体験。



○3回目：令和2年11月15日(日)

テーマ「命を守りあって自然と生きる力！」

- ・火おこしや水のろ過体験。



○4回目：令和2年12月25日(金)

テーマ「伝えて広めよう自然と生きる力！」

- ・2、3回目の活動を広く紹介するための映像制作。Youtubeでの配信。

<場所>

- ・松葉川林間キャンプ場、ほか

<実績>

- ・参加者数 のべ40名(小学生、中学生、高校生、大学生、大学校学生)
- ・参加者満足度：87%
- ・全4回で作成した活動動画アクセス数318回
- ・参加者と保護者の感想(アンケートより)

【参加者】

「森林がろ過措置の役割をしていることが体験から分かった。」

「木を伐採する時に受け口を作る意味が実感できた。」

【保護者】

「普段から環境問題に対する意識は高い方でしたが、今まで以上に日常生活の中で気づいたり、気をつけたりするようになりました。」

「大学生との触れ合いはとてもいい刺激になったようで、自分がリーダーになった際の立ち振るまいなど、勉強になったようで学校の活動でも少しだけファシリテートが上手になったようです。」

3 今後の取組

本事業は、中部、東部、西部地区でそれぞれ実施し、その取組の成果をホームページ上で公開してきました。

今後は、本事業の取組の成果を県内に広く展開するため、森林保全に関する体験活動を学校や社会教育の場で支援することのできる地域人材を育成していきます。



森林研修センター情報交流館

森林ボランティアリーダー養成講座

(林業環境政策課)

1 現状と課題

森林研修センター情報交流館は、平成11年4月に、森林及び木の文化に関する情報の収集及び提供並びに学習機会の提供と、森林に関するボランティア活動などの支援を目的とした施設として開館しました。平成18年の指定管理者制度の導入に伴い、情報交流館ネットワークを指定管理者に指定し、管理運営を行っています。

情報交流館では、高知県の自然豊かな環境を次世代に繋げ、その尊さ、素晴らしさ、大切さを伝えていく人材を育成するため、森づくり、自然体験、木工クラフトの3コースからなる森林ボランティアリーダー養成講座を開催し、14年間で延べ696人の修了生を輩出しました。より参加し易くするために、前年度に引き続き森づくり講座以外を1回～4回の短期講座で行いました。本年度も多くの方に受講していただき、情報交流館の取組の周知とボランティア確保に努めました。

(令和2年度の受講生実績は113名)



2 実施した取組

(1) 森づくり講座 (全6回)

チェーンソーや刈払機の技術、関係法令や安全衛生などを学び、森林整備を実践するとともに、子どもたちに森林の大切さを伝える人材を育成します。



間伐実習の様子

(2) その他の短期講座

1回～4回の短期講座を8講座開催。昨年度に続き伐採から行う竹細工講座、編みを体験する竹細工講座、グリーンウッドワークでのイス作り、木のスプーン、スパチュラ作りなど、木工クラフトにおいてもより幅広い講座を実施しました。



グリーンウッドワーク イスづくり

その他、里山体験講座、森の遊び場づくり講座など、たくさんの専門家、ボランティアの方々にご協力を頂きながら、森林により高い関心を持つ人材を育成しました。



里山体験講座の様子

3 今後の取組

引き続きボランティア確保とリーダーの養成が課題です。講座の修了生にボランティアとして定着してもらい、その中からリーダーとなる人材を育成する仕組みづくりを構築します。

県立牧野植物園

(自然共生課)

1 概要

牧野植物園は、高知県が生んだ植物学者・牧野富太郎博士の偉業を顕彰する施設として、昭和33年4月に高知市五台山に開園しました。

多様なニーズに応えるため、平成11年に「牧野富太郎記念館」、平成22年には新温室を整備し、平成30年の夜間開園の拡充、平成31年の「こんこん山広場」や「ふむふむ広場」のオープン、常設展示室のリニューアルなど、進化を続けています。

植物園地は20.5ha（うち7.8haを供用）、主要施設として、牧野富太郎記念館（本館、展示館）、回廊、温室、資源植物研究センター、土佐寒蘭センター、長江圃場などがあり、レストラン、ショップ、カフェも運営しています。



常設展示室「展示館シアター」

2 運営主体

公益財団法人高知県牧野記念財団を指定管理者に指定（R3.4.1～R6.3.31）

3 令和2年度の主な植物園活動実績など

牧野植物園では、植物に親しみながら、植物の大切さや自然環境の保護保全について改めて考えていただく機会を提供しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部中止となりましたが、各種教室やイベント、展示活動等を行っています。

(1) 植物教室

植物についての知識の普及を目的とした教室など、社会のニーズを意識した実践的かつ幅広い内容で教室を実施しています。

- ・「草花を描く」「ふれあい植物観察会」「ハーブの教室」「くらしの植物教室」など

(2) 子ども自然体験教室

いろいろな体験を通して子どもたちに五感で自然を感じてもらおうことを目指して実施しています。

- ・「植物を描こう!」「竹でカブトムシをつくらう!」「押花づくりに挑戦しよう!」など

(3) 学習プログラムなど

遠足や校外学習で来園される未就学児や児童生徒に対し、学習プログラムやクイズ形式の解説を実施するとともに、出前授業など幅広く植物について学ぶ機会を提供しています。

- ・学習プログラム「フィールドクイズ」「空飛ぶタネ」「植物解説（ふむふむ広場）」など

(4) 企画展関連イベントなど

植物に興味・関心を抱き、植物園に足を運んでもらうきっかけづくりとして、植物や牧野富太郎博士に関連した催しや、生きた植物の展示や教室、夜間イベントなどを開催しています。

- ・「春のフラワーショー」「植物スタンプラリー」「夜の植物園」「クリスマスウィーク」「旅するラン展」など



こんこん山広場での春のフラワーショー

(5) その他

来園者への展示解説・植物解説、園外への講師派遣などを行っています。

※令和2年度入園者数:115,908人

4 研究型植物園として

牧野富太郎博士の研究業績を受け継ぎ、県内の自然環境を保全するための研究、調査を実施し、野生植物の分布や生育地の状況の把握に努めています。

また、県内で栽培が可能と思われる薬用植物資源の品目の選定を行い、県内農家で実証試験栽培を行うなど、研究結果を県の産業振興に結び付けることを模索しています。

さらに、ミャンマーやソロモンで収集した豊富な植物の有用性を見出すためのエキスライブラリー化を進め、県内外の大学や企業との共同研究により、新薬や機能性食品などへ利用可能な植物の探索を行っています。

令和3年3月には、名古屋市立大学と資源植物の研究、創薬研究において連携を行う協定を締結しました。

※牧野植物園ホームページ

<https://www.makino.or.jp/>

県立甫喜ヶ峰森林公園（林業環境政策課）

1 森林環境プログラムの実施

甫喜ヶ峰森林公園は、昭和53年に開催されました第29回全国植樹祭の会場として整備された後、県民の憩いの場、児童・生徒の学習の場として多くの県民の皆様に親しまれています。

公園の設置目的である、「県民への森林に関する知識の普及を図り、もって森林愛護の思想を高める」ために、森林環境プログラムを実施しています。



県立甫喜ヶ峰森林公園の様子

（1） 森の贈りもの届けます事業

学校関係の利用促進と森林環境学習の充実を図るため、森林環境学習、間伐体験、自然観察、ネイチャーゲーム、クラフトなどの体験プログラムを公園内で行ったり、学校などへの出張により実施しています。令和2年度は46件（参加人数 4,097人）でした。

（2） 里山林体験事業

里山林をうまく生活に取り込んでいた時代に行われてきたことや里山林の成り立ちや仕組みについて学習する機会として、しいたけの生態や発生の仕組み、実際のコマ打ち体験などのプログラムを年間を通じて実施しています。令和2年度は5件（参加人数202人）でした。

（3） 森あそび体験事業

小学校4年生までの児童とその保護者を対象とし、「森あそび」として公園内での子どもの遊び場づくりをしながら自然体験活動をする事業で、年間を通じて実施しています。令和2年度は3件（参加人数48人）でした。



中学生によるネイチャーゲーム



しいたけのコマ打ち体験



森あそび体験